

2019 年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会常任理事／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

ウィキペディアによると、2018 年の夏（6～8 月）の平均気温は、東日本（関東甲信・東海・北陸）で平年比 +1.7℃となり、1946 年の統計開始以降最も高く、西日本でも平年比 +1.1℃で、統計開始以降第 2 位の高さとのことで、確かに非常に暑いと実感した夏でした。その影響かどうか、例年のように 11 月上旬にスギの木を観察してみますと、雄花を着けている枝の割合（筆者はこれを便宜上「着花率」と称しております）は、ほとんどの木で昨年より高くなっています。図 1 は年別のスギ雄花の着花率とスギ花粉数のグラフです。棒グラフは左軸で、県内全測定機関のスギ総数の平均値、折れ線グラフは右軸で、20 数か所のスギの木の着花率です。平均着花率と花粉総数の回帰式によりますと、県内測定施設の平均値として、約 3,800 個/cm² というスギ花粉総数の予測値となりました。平年値は 2,700 個/cm² です。定点観察木以外の多くの木も含めて、今シーズンは着花状態が良好の木が多いようです（図 2～7）。

一方、ヒノキですが、昨年は、平年値（1,040 個/cm²）の約 4 倍となる 4,100 個/cm² という、過去最大の飛散数となり、初めてスギの総数を上回る数となりました。今シーズンは昨シーズンほどの花芽は着いていないように思いますが（図 8～9）、ヒノキはもともと花粉数の予測が困難なため、実際の飛散に関しては蓋を開けてみないとわかりません。

山口県医師会の花粉情報委員会は 1995 年に本格的に活動を開始し、今シーズンで 25 年目となります。花粉の予測は筆者が 2001 年から担当させていただいております。花粉測定機関は、発足当初からこれまで続けていただいている機関（誠

にありがたいことと感謝申し上げます）、辞められた機関、途中から参加された機関、休止後復活された機関等があるなど入れ替わりも度々で、最多で 28 機関あった年もありましたが、年々減少しています。今シーズンは残念ながら 1 機関が測定を終了されますが、嬉しいことに新たに 1 機関に加わっていただくことができ、計 20 機関で測定を行います。また、観察木についても、台風で倒れたり（図 10）、土地開発等でスギ林がごっそりと整地されたり（図 11）したために、近くの別の木を代替の観察木にせざるを得なかったりということで、開始時と比べて半数程度が入れ替わっています。

予測開始当初の 5 年間は予測数と実測値の差があまりなく、花粉に関する国内の大御所の先生に「すごい的中率」とお褒めのお言葉をいただいたこともありましたが、測定機関や観察木の交代・変更といった事情等により、その後、両者の差が大きくなることも多くなってきました。今回が 19 回目の予測となります。花粉予測の限界を痛感する今日この頃です。

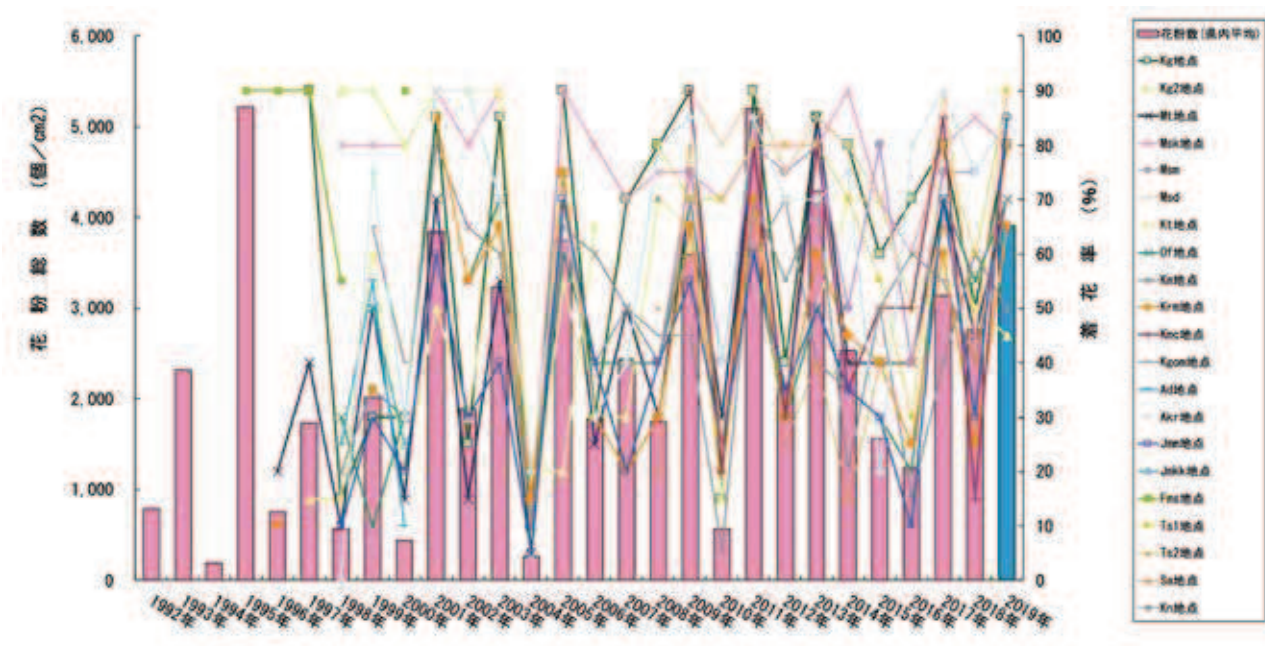


図1 着花率と花粉数



図2 jm地点のスギ(2017秋)



図3 jm地点のスギ(2018秋)



図4 kki地点のスギ(2017秋)



図5 kki地点のスギ(2018秋)



図 6 mt 地点のスギ (2017 秋)



図 7 mt 地点のスギ (2018 秋)



図 8 kk 地点のヒノキ (2017 秋)



図 9 kk 地点のヒノキ (2018 秋)



図 10 台風によるスギの倒木



図 11 スギ林の伐採